

福島第2地方合同庁舎

～ 災害に強く、地域に寄り添った安心・安全な施設整備 ～

【東北地方整備局 営繕部】

【設計概要】

（配置・外観計画）

敷地内のしだれ桜は国の天然記念物である「三春の滝桜」の孫にあたり、早咲きの桜として50年以上前から福島市民に親しまれています。

観光スポットとしても期待される既存のしだれ桜を敷地固有の景観資源として位置づけ、施設の外観設計に有効的に活用する計画です。また、建物をセットバックさせることで市のシンボルでもある「信夫山」への眺望を意識しました。

それら、まちの景観を構成する要素を継承しつつ人の交流の場を創出する、地域に根ざした施設整備を目指しています。

敷地内は歩車分離を徹底し、見通しの良い進入退出路の確保、理解しやすいサイン計画など、ユニバーサルデザインに基づいた「誰もが安心して利用できる」施設整備計画です。

（平面・空間構成）

執務空間を整形でゆとりのある空間とすることで、使いやすく、将来の利用形態やシステムの変更に対して柔軟に対応できるフレキシブルな空間計画としています。

また、計画段階から地域連携協議を図り、災害時には周辺住民の一時避難所として活用できるスペースの確保と設備の整備を図っています。



構造：鉄筋コンクリート造
地上6階建 塔屋1階

延べ面積：6,548㎡

完成年度：令和4年度予定

[想定完成外観]